

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名（生年月日） 合田 喜賢（ ****年**月**日）

本籍（外国人の場合国籍） *****（都道府県）

学位（専攻分野） 博士（ 医療福祉学 ）

学位授与番号 乙第 39 号

学位授与日付 令和4年3月21日

学位授与の要件 学位規程第3条第4項該当

論文題目

明治・大正期における伝染病院の形態とその変遷に関する研究

審査委員会

主査 熊谷 忠和

副査 飯田 淳子

副査 松本 正富

副査

副査

副査

博士論文内容の要旨

本論文は、明治・大正における伝染病院の形態とその変遷に関する研究を通してその医療福祉的意義について論述したものである。まず第1章では、研究背景として明治・大正期における伝染病対策や病院建築に関する既往研究をまとめ、本研究が依拠する資料提示と研究の方法が示されている。第2章では、明治・大正期の伝染病院の実態を明らかとするため防疫の実務書(21冊)を基礎資料とし、立地条件、配置条件、病室の建築的条件に注目し、特徴と変遷を検討している。第3章では、第2章と同じく、防疫の実務書(21冊)を基礎資料として、明治・大正期における伝染病院の看護体制や看護婦室の実態やその変遷について検討している。第4章では、これまでの明治・大正期における伝染病院建築の研究が首都東京の状況を示すものが多いとして、個別分析のための事例として京都学・歴彩館蔵「乙訓自治会館病院組合文書」を基礎資料とし、乙訓病院の1901(明治34)年の建設時と1918(大正7)年の移転時の建築形態とその変遷について検討している。第5章では、本論文の結論として明治・大正期における伝染病院建築にみる医療福祉的意義について述べている。本研究の医療福祉的意義は、隔離から利便性への移行、衛生に配慮した立地環境、差別的イメージ払拭のための立地の設定、敷地内の区画ならびに動線計画による院内管理、合理性・安全性に配慮した配置構成、適切な建具・家具の活用による病室内の環境、医療従事者のための場の発生、病室の個室化と付添人室による看護の場の出現としている。

博士論文審査結果の要旨

予備審査会(2021年11月5日)において博士論文提出予定者によるプレゼンテーションと口頭試問および公開の論文発表会(同日)をもとに博士(医療福祉学)に値するか否かを審査した結果、3人の審査員の全員一致で合格とした。ただし、論文趣旨の明瞭化をさらに図るため、本研究の医療福祉的意義の明示、章立ての整理等を指摘した。

その後、予備審査で指摘した諸課題に適切に加筆・修正されたものが審査委員会（2022年1月14日）に提出された。論文の意図をわかり易くするための文章表現上の微調整の必要はあるものの、論文審査会でのプレゼンテーション・口頭試問、さらに最終学力試験として位置づけした公開論文発表会（2022年1月21日）でのプレゼンテーション、および提出博士論文を中心に、学位申請書、論文要旨、論文概要、論文目録、履歴書および参考となる論文等の提出書類を詳細に審査した結果、重要な医療福祉学的知見を得た価値ある業績であると認め、医療福祉学専攻にふさわしい博士論文であると評価した。

審査委員会は、博士(医療福祉学)として適切であると認め、合格とした。